

## 水産海洋地域研究集会

### 「2005/06年の厳冬の実態と北海道海域における海洋環境と水産資源への影響」―速報―

奥田邦明(北水研)・桜井泰憲(北大水産)・丸山秀佳(釧路水試)・  
柏井 誠(東京農大網走)・谷津明彦(北水研)

2006年8月31日に釧路博物館において下記プログラムに沿って行われた。出席者は試験研究機関を中心に39名であった。2005/06年の厳冬は昭和38年の「38豪雪」以来20年ぶりの豪雪として人々の記憶に新しい。しかし、日本各地の気温で見ると今回の厳冬は12月～1月初旬にかけてわずか40日程度の現象に過ぎなかった。今回の厳冬や、1963年の「38豪雪」は、大気のテレコネクションパターンのうちWP(西太平洋)とAO(北極振動)の双方が、日本の冬季の天候を厳冬にさせるモード(活動度指数が大きな負偏差)となっていたことが原因であった。また、親潮第一分枝の南下も著しかったものの、1980年代の異常冷水時ほどではなかった。一方、これまでの気候レジームシフトが生じた際には非常に強いエルニーニョあるいはラニーニャ現象が必ず見られたが、昨年から今年にかけては弱いラニーニャ状態にあった。これらを総合すると、2005/06年の厳冬や親潮の南下はイベント的なものと考えられた。このイベント的寒冷状況が生態系や水産資源に与える影響については、本集会においては、経過時間が短いため加入量の把握が十分に行えないこともあり、明確には認識できなかった。しかし、例えば産卵期や加入決定時期にこのようなイベントが重なった場合には、その資源に大きな影響があることは十分想像できる。地球温暖化の影響のひとつに気候変動が激しくなることが想定されている。従って、今回のような異常現象が今後も生じることを念頭におき、そのためのモニタリングの継続・改良と早期警戒システムの構築が必要であると考えられた。また、予測困難な異常気象や気候変動に対して頑健な資源管理の必要性も議論された。今回の地域研究集会の開催にあたり会場を提供して下さった釧路市立博物館に深謝します。

挨拶 . . . . . 桜井泰憲(水産海洋学会副会長)

趣旨説明 . . . . 谷津明彦(北水研)

第1部 海洋環境の長期変動における2005/06冬季の位置づけ 座長:奥田邦明

1. 2005/06年冬季の天候と気候の数十年スケール変動 . . . . 花輪公雄(東北大院理)
2. 長期時系列から見た2005/06年の親潮の状況 . . . . 伊藤進一・清水勇吾・寛茂穂・平井光行(東北水研)
3. 北海道周辺の低次生産の長期変動から見た2005/06年冬期と2006春期の位置づけ . . . . 小埜恒夫(北水研)

第2部 北海道沿岸卓越種への影響 座長:丸山秀佳

4. 亜寒帯域の物理環境の長期変動とさけ・ます資源との関係 . . . . 東屋知範(北水研)
5. サケ・マス資源の変動と沿岸水温-オホーツク海沿岸を事例として . . . . 永田光博(道水産孵化場道東支場)
6. 利尻島、礼文島におけるリシリコンブの豊凶と海洋条件 . . . . 西田芳則(稚内水試) 第3部 北海道沖合卓越種への影響(その1) 座長:谷津明彦
7. 大型クラゲの出現傾向について . . . . 飯泉 仁・加藤 修・渡邊達郎・井口直樹(日水研)
8. スケトウダラ資源の長期変動との関係 . . . . 桜井泰憲(北大院水)・本田聡・船本鉄一郎・八吹圭三(北水研)

9. スルメイカ資源の長期変動との関係 . . . 森 賢(北水研)・木所英明(日水研)・桜井泰憲(北大院水)

第4部 北海道沖合卓越種への影響(その2) 座長:桜井泰憲

10. サンマ資源の長期変動との関係 . . . 上野康弘(東北水研八戸)

11. 近年, 急激に増加した日本海ニシン資源と環境変動 . . . 石田良太郎(釧路水試)・高柳志朗(稚内水試)・石野健吾・瀧谷明朗・田中伊織(道中央水試)・渡邊良朗(東大海洋研)

総合討論 座長:柏井誠

